

平成15年度

ISSN 0919-5572

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第12号



広畑野口遺跡(第2工区)調査風景(2・3頁に関連記事)

古代～近世の各務原

平成15年の5月から9月まで、蘇原野口町で「そはらのぐち ひろはたのぐち いせき広畑野口遺跡」の発掘調査が行われました。昨年度の調査に引き続き実施されたもので、昨年度の調査区の西側を新たに調査しました。

この広畑野口遺跡が所在する蘇原地区は、7世紀の後半から8世紀の初頭にかけて建てられた古代の寺院跡が集中している地域で、各務原市にある6つの古代寺院跡のうち、5つの寺院跡がこの蘇原地区に密集して建てられています。これだけ古代の寺院が集中するというのは、美濃地方全体を見てもこの蘇原地区以外には確認されていません。このことから、この地域の特殊性を垣間見ることができますが、今回の発掘調査では古代だけでなく中世、そして近世の遺構も調査することができました。

昨年度、そして今年度の調査から、この蘇原地域が歴史的にはたした役割が少しずつ明らかになりつつあります。

平成15年度の発掘調査

広畑野口遺跡発掘調査

広畑野口遺跡は、蘇原野口町・蘇原新栄町を中心に、蘇原瑞雲町・蘇原栄町を含むとても広い範囲に所在しています。しかし、その範囲は地形や遺物の散布状況を元に推測した大まかなもので、実態については最近まで不明でした。

ところが、この遺跡の中心を東西に通る道路の拡幅工事が計画され、発掘調査を行うことになりました。発掘調査は平成14・15年度と2度に分けて行いましたが、どちらの年も春から夏にかけて、炎天下での調査となりました。しかし、その苦勞の甲斐あって色々な発見がありました。ここにその2年分の発掘調査の成果をふりかえってみたいと思います。

遺跡の特徴は、蘇原中心部の歴史をそのまま物語っています。時代順に見てみましょう。

●縄文時代

縄文時代の石器が僅かに出土しました。磨製石斧(磨いて作った斧)です。近くに縄文の村があったのでしょうか。



発掘調査のようす

●古墳時代

古墳時代(5世紀末～6世紀初め)の須恵器が少量出土しました。市内の須恵器としては最も古い部類のものです。この須恵器は、同じ道路沿線部で平成9・10年に発掘調査を行った「熊田山北古墳群」のものと同時期のもので、何らかの関連があると思われます。

●奈良時代

奈良時代が始まった直後(8世紀初め)の遺物や遺構を多く検出しました。この成果は、各務原地域が時代の変化にどのように対応したのかを知るととても重要な資料になると思います。特に、出土品の一部を洗浄したところ、「美濃国」の刻印を入れられた須恵器が8点見つかっています。これは、遺跡の中の1つの遺構から出土した数としては全国で第1位となります。全ての出土品の洗浄が終われば、この数はもっと増えると期待しています。

その他、遺物で注目されるのは「畿内系土師器」と呼ばれる土器です。この土器は都の律令官人(国家公務員)のために製作されたもので、赤く焼き上げられ、



「美濃国」刻印須恵器

内面には「暗紋」と呼ばれる金属の反射を模した文様が付けられている美しい土器です。

これらのことを考え合わせると、広畑野口遺跡は都と深い係わり合いを持ち、当時の美濃国の中心地であったと推測してもよいかもしれません。

遺構で注目されるのは、奈良時代初期の3基の井戸で、現在のところ市内最古の井戸です。興味深いのは、これらの井戸や他の穴において粘土を採取した痕跡があることです。それらの場所には、スコップ代わりに使用されて磨り減った須恵器が置かれたままになっていました。採取した粘土の用途としては、住居の床やかまどの材料などが考えられます。

●平安時代

奈良時代末から平安時代初め(8世紀末～9世紀前半)の遺物や遺構も多く検出しました。発掘を行った場所では、この時代の住居跡が10基以上見つかり、最大件数となります。建物は頻繁な建替えが目立ちます。

●室町時代～戦国時代

発掘区のところどころに、室町時代から戦国時代にかけての溝が走っていました。その溝の規模から考えて、当時の一般庶民の家ではなく、大きな館があった

と考えられます。溝の中には、当時の儀式で使用された「かわらけ」と呼ばれる皿が投げ込んでありました。

発掘調査を行った蘇原野口町は、かつては「野口村」と呼ばれていました。天正17年(1589年)の史料に初めてその村の名前が現れます。これは、豊臣秀吉が行った一連の太閤検地に関する帳面です。今回の調査の結果がまとまっていくことで、歴史史料と考古資料の両方から当時の野口村を研究することができるようになると思われます。

●江戸時代

平成15年度に発掘した地点に、遺物や遺構が多く検出されました。井戸の跡だけでも8基が確認されました。このことは、野口村が中世の荘園領主による支配体制から近世的な農村へと変化する中で、農民の居宅を多く、安定して構えられるようになったことを意味しているのだと思います。

以上が、現時点までに分かっていることです。今後、整理作業が進んでいく中でも、新たな発見や見直しが生まれてくると思います。今後の進捗に期待が高まります。



調査区を縦横に走る溝



溝から出土した陶器類

大牧古墳群発掘調査

16年度の2月から3月にかけて、^{うぬまおおいぎ}鵜沼大伊木町で^{おおまきこふんぐん}大牧古墳群の発掘調査を行いました。

大牧古墳群は市の南を流れる^{きそがわ}木曽川の北岸に位置する古墳群です。現在は市立^{りょうなん}陵南小学校の校庭に保存されている^{おおまきこふん}大牧1号墳と、その西約300mのところにある^{つかこふん}ふな塚古墳以外はほとんど確認できませんが、昭和の初めごろの記録によれば、約80基もの古墳があったとされています。

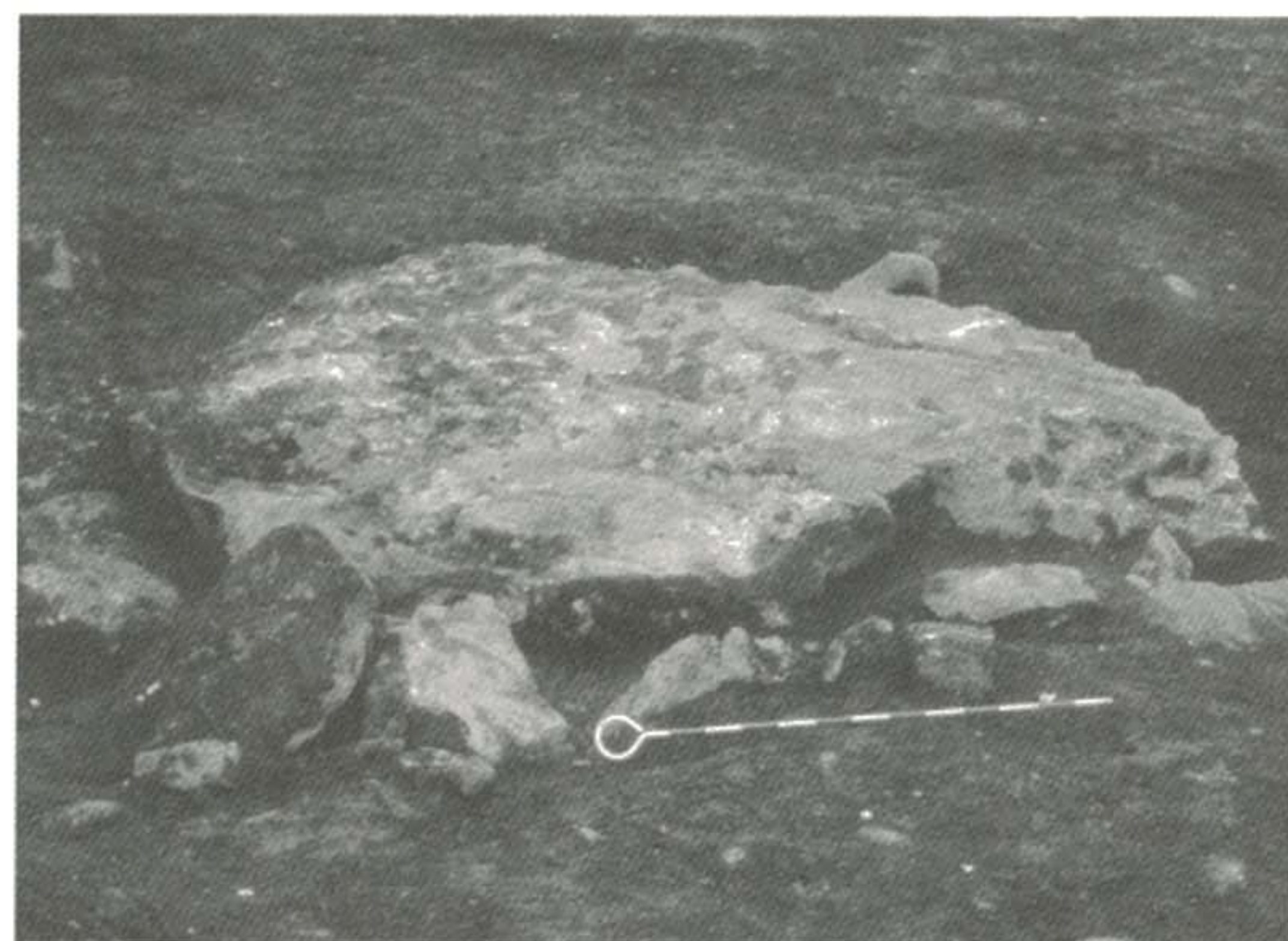
今回調査した場所でも、昭和40年代に土地の区画整理が行われており、残念ながら古墳の^{ふんきゅう}墳丘や^{せき}石室などは原形を留めていませんでした。しかし、調査区からは古墳の石室に使われたとみられる石材が多

く発見され、中には^{てんじゅういし}天井石と思われる約1.5m四方の山石も出土しています。また、調査の結果、古墳の^{しゅう}周溝とみられる^{みぞ}溝が南北方向に巡っており、最大で幅約5m、深さ約1mという規模であることが確認されました。溝からは^{すえき}須恵器や^{はじき}土師器などの^{どき}土器が出土しています。

今回の調査地から南西に約100m、同じ大牧古墳群に属す大牧1号墳は石室から^{ばぐ}馬具や^{いえがたせっかん}家形石棺などが出土しており、各務原の古墳時代後期を代表する古墳ですが、この大牧1号墳でもやはり周囲に幅約5m、深さ約1.5mの周溝が確認されています。この天井石や周溝の大きさから考えても、今回の調査区にかつて存在した古墳が大牧1号墳に^{ひってき}匹敵する規模のものであったと想像することができます。



調査区全景



出土した天井石



発掘調査のようす



古墳の周溝とみられる遺構

平成15年度の歴史講座

かかみ野古代史紀行

今年で5年目となる「かかみ野古代史紀行」、毎年度異なるテーマで講座を行っていますが、今年は特に焼き物にスポットを当て、「東海の古代・中世の窯業生産」というテーマで、6月から9月まで全7回の講座を行いました。

- 第1回 6/14(土) 「古代の猿投窯」
豊田南高校 城ヶ谷和広氏
- 第2回 6/28(土) 「古代中世の美濃窯」
多治見市文化財保護センター 山内伸浩氏
- 第3回 7/12(土) 「中世の瀬戸窯」
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 藤澤良祐氏
- 第4回 7/26(土) 「中世の常滑」
常滑市民俗資料館 中野晴久氏
- 第5回 8/9(土) 「湖西と渥美窯」
湖西市教育委員会 後藤建一氏
- 第6回 8/23(土) 「王権と龍」
浅野弘光氏
- 第7回 9/13(土) 「古代の美濃須衛窯」
各務原市教育委員会 渡辺博人氏

例年通り、講師はそれぞれ専門の研究者を招き、長年の研究の成果を一般の人々にも分かりやすくお話していただきました。

特に、今回はテーマが窯業ということで、実物の土器を持ってきていただいた講師の方が多く、土器を実際に見て触ることができる数少ない機会とあって、講座の終了後などは大勢の参加者が土器を前に講師に質問をする姿が見られました。

今年度の講座では、これまで市内在住・在勤者に限定していた対象者を、市外の方にも参加していただけるよう変更し、その結果ほぼ定員となる36名の方に参加していただきました。講座終了後に行ったアンケートによれば、今回の講座では歴史愛好家だけでなく陶芸に興味のある方にも多く参加していただき、各地域の窯業についての歴史的背景や、土器自体の器形や胎土など、現代の陶芸にも通じる部分で興味深く講座を聞いていただけたようです。

来年度はもっと時期をさかのぼり、旧石器時代から縄文時代をテーマにして、秋から冬にかけて講座を行う予定です。大勢の皆様の参加をお待ちしています。



講座のようす(第3回 藤澤氏)



講座を聞く参加者

平成15年度の埋文体験講座

勾玉づくり(滑石・樹脂)

今年度の^{まがたま}勾玉づくりは、材料ごとにそれぞれ2日ずつ、計4日開催しました。材料は子供でも比較的形を作りやすい^{かつせき}滑石と、滑石に比べ作業が困難なかわりに、様々な色に着色されている^{じゅし}樹脂とがあり、各日15名の定員を超える申し込みがありました。

勾玉1つにつき、滑石の場合は1～2時間、樹脂だと3時間以上も削り続けないと形ができあがらないため、小学校低学年くらいの参加者は途中で疲れてしまうことも。それでも削っているうちに、「勾玉はどうしてこんな形をしているのか」、「昔はどうやって削っていたのか」など、勾玉を通して歴史について考える機会が自然に生まれているように思います。

勾玉づくりは毎年開催していますが、参加される方の多くが勾玉のもつ独特な形や雰囲気に興味を持って申し込まれているようです。参加者の方にとっては^{なぞ}謎に満ちた勾玉の形を作ることが、そのまま歴史の^{いったん}一端に触れるということなのかもしれませんね。



勾玉づくり講座のようす

古代土器づくり

^{どき}土器づくりは2日間の日程で実施しました。

1日目には^{うぬまみつけ}鶴沼三ツ池町の^{ろばたいせき}炉畑遺跡から出土した^{じょうもん}縄文土器や、^{なにかきりの}那加桐野町の^{きりの}桐野遺跡から出土した^{やよい}弥生土器など、市内出土の実物の土器をお手本にしながら^{ねんど}粘土で形を作っていました。今回参加した17名の参加者の中には、昨年度から続けて参加した方も多く、あらかじめ作る土器の形を決め、大きさなどを測って本格的に準備している参加者の方もありました。全体的にみると、やはり独特の^{ようしきび}様式美をもつ縄文土器をお手本にする参加者が多かったように思います。

粘土での成形から1ヶ月の乾燥期間をおき、2日目の^の野焼きを炉畑遺跡で行いました。直接火にかけるタイミングが早すぎたためか、ほとんど土器が割れなかった昨年に比べ、^{ていぶ}底部などが割れてしまう土器が多かったのが残念でした。この土器づくり講座は来年度も実施する予定ですので、次回は割れてしまう土器が出ないよう^{しょうせい}焼成の方法や材料などを再検討する必要があるそうです。



野焼きのようす

新刊図書のご案内

発掘調査報告書

●徳山更木陣屋跡発掘調査報告書

江戸時代に旗本徳山氏の居所となった役所の跡です。この陣屋については、各務原市の重要文化財である「更木陣屋絵図」に間取等の詳細が描かれています。建物は残っていません。発掘調査では、陣屋の所在した可能性が最も高い地点を調べました。その結果、陣屋の正門側の区画溝、土蔵跡、便所跡、井戸跡等を確認し、陣屋の大まかな位置と範囲とを特定することができました。調査を行った場所は、現在「徳山陣屋公園」として整備されています。

●承国寺遺跡発掘調査報告書

室町時代に美濃を治めていた土岐持益が創建したと伝えられる臨済宗の寺です。現在、寺は残っていませんが、発掘調査を行った結果、寺の北境界を示すと思われる土塁があり、その内側からは溝や穴、墓の跡とともに、多量の土器等が見つかりました。

出土した遺物の中で目立つのは「かわらけ」と呼ばれる素焼きの皿です。この皿は、特別な儀礼の場で一度だけ使用されるという食器です。応仁の乱が起こり京都が荒廃し始めると、この承国寺にも文学僧たちがやってきます。そこで繰り広げられた、華やかな儀式や宴会の様子が伝わってくるようです。

※センターでは、市内の遺跡や文化財について分かり易くまとめたリーフレットを無料で配布しています。

平成14年度「かかみ野古代史紀行」 講義録

平成14年度に実施された歴史講座「かかみ野古代史紀行」の内容をまとめた講義録です。講座をすべてテープ起こしして、各講師の方に加筆・修正していただいた上で掲載しています。「古墳時代の技術と文化」のテーマのもとに行われた、下記の講座を収録しています。

1. 「古墳時代の技術と文化」

独立行政法人 文化財研究所

奈良文化財研究所 高橋克壽氏

2. 「美濃の後期古墳の築造技術」

池田町教育委員会 横幕大祐氏

3. 「濃尾の石棺」

名古屋市見晴台考古資料館 服部哲也氏

4. 「美濃の集落出土の製塩土器」

豊田市役所 森 泰通氏

5. 古墳時代の木製品からみる東海の古墳時代

(財)愛知教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター 樋上 昇氏

6. 「古墳出土の各務原の馬具」

(財)岐阜県文化財保護センター 澤村雄一郎氏

7. 「鬼の衰退から天狗へ」

各務原市教育長(当時) 浅野弘光氏

また、センターでは過去に行われた「かかみ野古代史紀行」の講義録も販売しています。直接センターの事務室までお越しいただくか、または郵便振替でもご購入いただけます。詳細は埋蔵文化財調査センター(TEL0583-83-1123)まで。2～4巻、各500円。(1巻はすでに完売しました)

日誌抄 (2004年2月現在)

◆見学・来訪

4/16	東海中央病院職員見学	23名
5/9	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	2名
5/20	兵庫県赤穂市議会視察	10名
5/29	稲羽中学校1年生見学	13名
5/30	J A尾張中央女性部小牧地区見学	74名
6/17	各務原市自治会連合会見学	18名
7/4	緑陽中学校1年生見学	70名
7/4	北海道江別市議会視察	5名
7/14	動く市民教室(前渡西町自治会)	23名
7/18	東海女子大学4年生	15名
8/5	各務原市文化財審議会	5名
8/27	動く市民教室(大牧団地自治会)	30名
9/18	動く市民教室(尾崎北町自治会)	25名
10/17	三重県桑名市歴史研究会見学	50名
1/30	那加中学校見学	25名
2/5	動く市民教室(前渡東町自治会)	25名

◆各務原市生涯学習まちづくり出前講座

7/1~3	各務原高校1年生 インターンシップ	
	「広畑野口遺跡(第2工区)発掘体験」	
10/22	稲羽中学校1年生 総合的な学習	
	「地域から学ぶ」	
10/23・12/4	陵南小学校 総合的な学習	
	「縄文土器の作成」	

11/14 中央中学校1年生 総合的な学習

「各務原の歴史と文化」

11/8・12/7 陵南小学校 P T A家庭教育学級

「ふるさと歴史探訪 縄文土器を探そう作ろう」

2/10 埋蔵文化財同好会 かかみの

「宮塚遺跡の環濠集落(弥生時代)」

◆資料貸出・写真掲載

4/1	愛知県陶磁資料館	
	常設展「猿投・瀬戸：全国古窯陶磁資料展」	
	美濃須衛窯跡群出土資料の貸出	
	(平成6年より継続)	
4/1	『考古資料大観 第1巻 土器Ⅰ』	
	(株)小学館 平成15年8月20日発行)	
	炉畑遺跡出土縄文土器の写真掲載	
10/30	春日井市教育委員会	
	平成15年度文化財特別展	
	「美濃と尾張をむすぶ道」	
	山田寺跡出土資料等の貸出	
10/8	可児市郷土資料館	
	平成15年度特別展	
	「ファッションの考古学～東海版～」	
	炉畑遺跡出土資料等の貸出	

編集後記

今年度行った発掘調査により、また少し各務原の歴史が明らかになりました。こうして調査等で得た情報を、冊子や講座などを通してできるだけ多くの方にお伝えしていきたいと思えます。(B)

〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

開館時間：午前10:00～午後5:00

休館日：月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日(その日が土・日曜日・休日の場合は、さらにその翌日)

年末年始(12/28～1/4)

市教育委員会の定める日

交通：名鉄各務原線「市民公園前」駅すぐ

入館料：無料

駐車場：右図参照

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第12号〈平成16年3月〉

編集発行 各務原市埋蔵文化財調査センター
〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3-1-3
TEL 0583(83)1123 FAX 0583(71)1145
ホームページURL
<http://www.city.kakamigahara.gifu.jp/maibun>

